

益田市市長
山本浩章

東京オリンピック・パラリンピックが開かれ、太平洋の向こうではアメリカ大統領選挙、夏には本市の市長選挙も実施される2020年は、およそ4年に一度の「うるう年」でもあります。

このうるう年が設けられるのは、地球が太陽の周りを一周する「公転周期」が切りの良い日数となっていないためです。公転周期は別の言葉で言えば「一年」であり、春夏秋冬が一巡し、樹木の幹の中で年輪が一つ刻まれる周期です。一方、「一日」は、地球の自転に由来するもので、日が昇って起床し、働いて食事をし、日が沈んでから眠るという最も基本的な生活周期です。前者を後者で割ると、1年は約365.24219日となります。

仮にすべての年を365日とする、4年ではほぼ1日のズレが生じます。これを解決するため、ローマのユリウス・カエサルは、4年おきに2月

に1日付け足し、その年を366日とするユリウス暦を紀元前45年から実施しました。当時としては最先端の天文学研究の成果を反映させた画期的な暦法でした。

しかしこのユリウス暦でも128年で1日の誤差が生じてしまいます。そのためすでに10日以上ズレが顕在化していた1582年、さらに改良を加えたグレゴリオ暦が教皇グレゴリウス13世によって制定されました。

これによれば、4の倍数の年は原則うるう年としますが、例外として100の倍数の年はうるう年としません（このため1800年も1900年も平年となった）。ただし、さらに例外があり400の倍数の年はうるう年とするのです（このため2000年はうるう年となった）。このようにグレゴリオ暦はうるう年を4百年に97回とすることによって3千年経過後も誤差1日未満という極めて高い精度を実現し、現在我が国を含む多くの国で採用されています。

地球の回転により決定される我々の生活のサイクルを永続的に整ったものにする工夫の一つがこのうるう年です。人類長年の苦心の産物である2月29日は実に貴重な一日といえます。

益田市の文化財の紹介

第5回 木造阿弥陀如来立像(教西寺)

【問い合わせ先】 市文化財課 ☎31-0623

益田市指定文化財・有形文化財（彫刻）の木造阿弥陀如来立像は、高津一丁目の教西寺に安置されている仏像です。教西寺は浄土真宗本願寺派の寺院です。

本像は寄木造り※1で、内刳り※2が施されています。像高1m弱の阿弥陀如来であることから「三尺阿弥陀」と呼ばれるもので、理知的な面相とともに、仏師快慶の様式（阿弥様）の特徴がよくあらわれており、その系譜に連なる仏師の制作と考えられます。着衣や衣紋※3が体軀に沿って自然に流れる表現がされ

ていることなどから、鎌倉時代、13世紀中頃から後半の制作と考えられています。

本像は、かつて教西寺の近隣に存在した、柿本神社の神宮寺※4・真福寺の本尊であり、真福寺が明治初年の神仏分離※5により廃絶したため、教西寺に移されたと伝わります。廃絶した真福寺、ひいては、柿本神社や高津の歴史を物語る貴重な遺品と言えます。

【参考文献】『祈りの仏像』島根県立石見美術館、2015年。

【註】

- ※1 いくつかの木材をはぎ合わせて仏像を制作する方法。
- ※2 内部を刳り抜き、空洞にすること。木材が乾燥して割れるのを防ぐ。
- ※3 衣装類の皺やひだ。
- ※4 平安時代に日本古来の神への信仰と仏教信仰が融合した信仰形態である、神仏習合のもと、神社に付属して建てられた仏教寺院のこと。
- ※5 神仏習合を禁止し、神と仏、神社と寺院をはっきりと区別すること。明治初年の神仏分離により廃絶した寺院は少なくない。

名称	木造阿弥陀如来立像
読み	もくぞうあみだによらいりゅうぞう
指定	益田市指定文化財
種別	有形文化財（彫刻）
員数	1 軀
所在地	益田市高津一丁目 40-18
所有者	宗教法人 教西寺
年代	鎌倉時代（13世紀中頃～後半）
像高	98.9cm
指定年月日	平成31年4月1日



（島根県立石見美術館提供）